

令和6年度 佐那河内小学校・中学校 学校評価アンケートについて

1 はじめに

本校では、「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として「英語教育」「ふるさと学習」「ICTを活用した教育」を三本柱とし、9年間を通してすべての児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことを目指しています。

今年度の取組について、児童生徒、保護者及び教職員に対してアンケートを実施いたしました。（実施期間：1月27日から2月14日まで）本アンケートは、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的としています。結果について、以下にまとめます。

2 小学校

<生活について>

児童アンケートでは、「朝ごはんを食べている」「手洗い・うがいを心がけている」「清掃を時間いっぱいできている」等多くの項目において肯定的な回答をしている児童の割合が約85%以上ありました。一方、「忘れ物をしないように持ち物を用意したり、身の回りを整理整頓したりしている」と回答している児童の割合が約76%でした。「早寝・早起きができている」と回答している児童の割合は約53%で、昨年度に比べて15ポイント減少していました。今年度は、生活リズムチェックや睡眠をテーマにした健康講演会等を実施し、児童の意識付けはできましたが、実生活にはまだつながっていないことが分かりました。今後も、健康に関する取組を継続するとともに、家庭への啓発等を工夫し、望ましい生活習慣を身に付けられるように努めます。

また、今年度の重点目標として掲げた「自分から先生や友達にあいさつができている」という項目においては、朝のあいさつ運動や教職員による声かけ等に取り組んだ結果、肯定的な回答をしている児童・保護者の割合が93%以上で増加傾向がうかがえました。教職員の割合も約86%に増えていました。朝のあいさつは習慣化してきましたが、いつでも自分から先に気持ちのよいあいさつができる児童の育成を目指しています。今後も、家庭や地域でのあいさつの励行等を含めて学校全体で取り組む雰囲気をより一層醸成していきます。

<学習について>

児童アンケートでは、「授業はわかりやすく楽しい」「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている」「学校行事や校外へ出かけて体験する学習は楽しい」等の項目において肯定的な回答をしている児童の割合が85%以上あり、学習に対して前向きな姿勢が見受けられます。一方、「授業で自分の考えを文章に書いたり、発表したりしている」と回答

している児童の割合は約 76%とやや低い傾向がうかがえました。また、保護者アンケートでは、学力向上や分かりやすい授業づくりに向けた学校の取組に関する項目において肯定的な回答をしている保護者の割合が 80%以上でした。特に、英語活動やふるさと学習に関する項目において肯定的な回答している保護者の割合が約 95%で高い傾向にありました。

「進んで読書をしている」という項目においては、肯定的な回答をしている割合が、児童は約 80%、保護者は約 98%と高い傾向にありました。保護者の肯定的な回答は、昨年度に比べて 44 ポイント増えました。教職員の肯定的な回答は約 96%と高かったです。学校では、昨年度に引き続き、様々なイベントや読み聞かせを開催するなど読書推進に向けた取組を充実させたことにより、児童の学校図書館の活用や読書時間等が増えています。また、読書冊数に合わせて貸出カードをグレードアップさせるなどの工夫も児童の読書意欲の喚起につながったと考えます。

<情操教育等について>

児童アンケートでは、「友達のよいところを認めている」「友達をいじめたり仲間はずしをしたりせず、誰とでも仲良くしている」等の項目において肯定的な回答をしている児童の割合が 94%以上で、昨年度同様、高い傾向がうかがえました。道徳の時間や体験的な活動に取り組んだり、発達段階に応じて人権や生命を尊重するための取組を工夫したりした成果の現れだと考えられます。しかし、保護者アンケートでは、否定的な回答をしている保護者の割合が約 19%であることから、学校での取組や人権教育に関する啓発活動をさらに推進する必要があると感じます。今後は、道徳ノートの持ち帰りや学級通信・ホームページでの情報発信等により家庭や地域へ啓発し、連携強化に努めます。

また、「友達のまちがった考えや行動に対してはっきりと自分の思いを伝え、正しい行動ができています」「困っている友達に自分から声をかけ、助けることができています」と回答している児童の割合が約 84%でした。「自分のよいところを知っている」と回答している児童の割合が約 75%で、昨年度と比べて 2 ポイント減少していました。今後は、自己を見つめたり、互いのよさを認め合ったりする機会を増やしポジティブな行動支援を推進する中で、児童の自尊感情を高めていきます。さらに、道徳の授業等で役割演技やソーシャルスキルトレーニング等を行うことにより、鋭い人権感覚や互いに助け合う実践力を育成します。

3 中学校

<生活について>

生徒アンケートでは、「学校の決まりやルールを守って行動している」「朝ごはんを食べている」「自分の役割や仕事に責任をもって取り組んでいる」など、生活に関する多くの質問項目で肯定的な回答をした生徒が 83%以上にのぼりました。同様に、保護者アン

ケートでも肯定的な回答をした保護者の割合は、約 80%と高い傾向にありました。しかし、「早寝・早起きができている」と回答した生徒の割合は、約 54%にとどまり、他の項目と比べて低い傾向になりました。今年度は、生活リズムチェックや睡眠をテーマにした健康講演会等を実施し、生徒の意識改革は一定の成果を上げましたが、実生活の習慣として定着するまでには至っていないことが明らかになりました。今後も、健康に関する取り組みを継続するとともに、生徒の自己管理能力を育成し、望ましい生活習慣の定着を図ってまいります。

また、昨年度の課題であったあいさつについては、「自分から先生や友達にあいさつができている」と回答した生徒の割合が約 90%に達し、保護者の回答割合も昨年度比で 10ポイント増加し約 88%、教職員の割合も約 86%となりました。今後も、どのような場面でも自ら進んで気持ちのよいあいさつができる生徒の育成を目指し、生徒会が実施している「朝のあいさつ運動」をはじめ、あいさつの意義指導や励行を継続していきます。その他の項目についても、多様な場面を活用し、生徒の生活習慣の向上を図れるよう、学校全体で取り組む雰囲気をもさらに醸成してまいります。

<学習について>

生徒アンケートでは、「授業で自分の考えを文章に書いたり、発表したりしている」「授業中先生や友達の話をしっかり聞いている」「自分に合った学び方を考えながら計画的に学習に取り組んでいる」と回答した生徒の割合が 80%以上あり、学習に対して前向きかつ主体的な姿勢がうかがえます。また、保護者アンケートでは、「学校は、生徒一人一人に対し、適切な指導や支援をしている」「9年間を見通した系統的な英語活動に取り組んでいる」「学校は、ふるさとのよさや魅力を探求する学習活動(ふるさと学習)に創意工夫をしている」と回答した保護者が 80%以上あり、学校の取組を肯定的に評価する声が多く寄せられました。特に、「学校は、授業や家庭学習において一人一台端末等で ICT を効果的に活用して学習に取り組んでいる」と回答した保護者は約 91%にのぼり、非常に高い評価を受けています。

一方で、「進んで読書をしている」という項目においては、肯定的な回答の割合に差が見られました。生徒は約 44%と低い傾向であるのに対し、保護者は約 70%、教職員は約 96%と高い傾向にありました。中学生になり「読書タイム」等の明確な時間が設定されていないことや、学習課題、部活動等自ら取り組むべきことが多くなったことなどが影響している可能性があります。学級文庫の本を充実させたり、セミナー学習等の後に読書時間を設定したりすることにより、以前より生徒の読書に対する取組はよくなっていますが、「読書」として認識されにくいのかもかもしれません。加えて、生徒自身が「読書」の定義を狭く捉え、漫画や参考書などを含めた読書量を過小評価している可能性も考えられます。今後は、学級文庫の活用や読書イベントの実施を通じ、読書習慣の定着を促していきます。

<情操教育等について>

生徒アンケートでは、「友だちをいじめたり仲間はずしをしたりせず、誰とでも仲良くしている」と回答した生徒が90%以上にのぼり人間関係の良好さがうかがえます。また、「いじめ防止に努めるとともに、発達段階に応じて人権や生命を尊重する意識や態度を育てている」と回答した教職員の割合も高く、様々な教育活動における人権教育の充実が一定の成果を上げていると考えられます。保護者アンケートでも、多くの方が学校の取組に肯定的な意見を寄せてくださっています。一方で、一部には課題を感じる声もありました。今後は、学校の取組のさらなる充実を図るとともに、家庭や地域との連携をより一層深めながら、共に情操教育や人権教育を推進していくことが重要です。

また、学校の取組をより広く知っていただくために、学校ホームページで、教育活動の様子を積極的に発信しています。今後も、学校と家庭・地域が共に教育を支え合えるよう、情報発信をさらに充実させ、保護者や地域の皆様と連携を深めながら、人権を尊重し、安心して学べる環境作りに努めてまいります。

4 学校運営（小中合同）について

学校教育目標の達成に向けて、全教職員が小中一貫教育の理念を理解し、9年間を見通した特色ある教育活動や学校行事、校務等に取り組んだ結果、学校運営に関する項目において肯定的な回答が多く見られました。また、学校での取組等をホームページ等で発信し開かれた学校づくりに努めるとともに、児童生徒や保護者の相談等に適切に対応できる校内支援体制を整え、家庭や地域との連携を図ることができました。

さらに、働き方改革を推進する中、「ゆとりをもって勤務できている」と回答している教職員の割合は約77%で、昨年度と比べて15ポイント増加していることが分かりました。「働き方改革について、保護者・地域への理解促進が図られている」と回答している教職員の割合は約68%でした。教職員が働きやすい職場環境づくりに努めている成果が少しずつ現れてきているように思います。しかし、教職員の勤務時間の管理や業務改善の推進等の項目については、昨年度同様に否定的な回答も見られました。様々な教育活動の企画・運営や児童生徒の指導等には時間と労力も必要になりますが、多様な工夫を取り入れ、組織的に対応することにより、よいものになってきていると感じます。次年度も教職員の意見を反映し、さらに業務改善や働き方改革等を推進したいと思います。

今後も、児童生徒はもちろん教職員が協働的に学び合うことにより、9年間を見通した教育活動を充実させ、家庭や地域とともに児童生徒を育てる学校運営を目指します。

5 学校関係者評価について

学校関係者評価を実施するに当たっては、保護者、地域住民、学識経験者、関係行政機関の職員等を委員とする学校運営協議会において、次のような御意見をいただきました。

- 学校運営と教育活動の評価
 - ・今年度の学校運営は、児童生徒・保護者・教職員の立場による違いはあるものの、全体的に高く評価され、多くの点で改善が見られた。
 - ・特に、ふるさと学習等の特色ある教育に関する項目において評価が高いのは、生徒の学びや気付きを取り入れた佐那河内のPR動画作成や9年間の系統的な英語教育等、創意工夫を活かした取組が本校の教育の質の高さを示している。
- 広報の課題と情報発信の工夫
 - ・学校の優れた取組は学校ホームページ等により積極的に広報されているものの、十分に認知されていない現状がある。
 - ・今後は、PTA総会やマチコミメール等を活用し、学校ホームページの閲覧を促すなど、広報や情報発信等の工夫をさらに進める必要がある。
- 家庭・保護者の関わり方
 - ・アンケート結果から、「早寝・早起き」「人権や生命を尊重する態度の育成」等の項目において、児童生徒と保護者の意識に乖離が見られた。
 - ・今後も保護者への啓発活動を推進し学校と家庭の連携を図るとともに、保護者自身が学び、関わり方を考える機会を設けることが有効ではないか。
- 教職員の働き方と環境改善
 - ・休暇を取りやすい雰囲気等があり、ゆとりをもった働き方が一定程度促進されていることに安堵した。
 - ・依然として多忙感をもつ教職員がおり、さらなる働き方改革の推進が求められる。
 - ・学校・教師が担う業務において負担軽減が可能なもの等について、保護者への情報発信を強化し、共通理解や意識改革を図ってはどうか。

6 おわりに

この評価結果及び皆様からいただきました御意見を、次年度の学校運営につなげていきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動に対しまして御支援・御鞭撻をお願い申し上げます。